

10課

9月5日

関わりを持つための 刺激的な方法



安息日午後 8月29日

暗唱聖句

そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。(マタイ9:37、38、口語訳)

そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」(マタイ9:37、38、新共同訳)

今週の聖句

創世記1:1、2、26、出エジプト記18:21~25、1コリント12:12~25、
使徒言行録16:11~15、40、4:31、12:12

今週のテーマ

「数には力がある」と言った人がいます。ある意味において、それは本当です。毎日、独りで運動しなければならぬときより、グループで運動しているときのほうが、はるかにやる気になっている自分に気づいたことが、あなたにはありませんか。多くの人が健康クラブやジムや運動施設に集まるのは、ほかの人と一緒に運動したほうが、もっと多く、しかももっと楽しく運動できると、彼らが信じているからです。同じように、神が私たちを創造されたのは、交わるためでした。私たちは社会的な存在であり、運動と同様、そのことは生活の中の多くのことに当てはまります。もし社会的支援システムがあれば、私たちはより良い結果を出せます。このことは、特に霊的な事柄に当てはまります。

聖書全体を通じて、信仰を強め、み言葉の知識を増やし、あかしをする力を私たちに身につけさせる神の方法の一つとして、小グループが強調されています。父、み子、聖霊は、小グループの働きに参加なさいました。モーセは小グループの指導者でした。イエスは弟子たちという小グループを創設なさいましたし、パウロは伝道者仲間の小グループとともにローマ世界を旅行しました。

私たちは今週の研究の中で、小グループに対する聖書の根拠に焦点を合わせます。そしてあなたは、関わりを持つための刺激的な方法を見いだすでしょう。

問1 創世記1:1、2、26、ヘブライ1:1、2、エフェソ3:8、9を読んでください。これらの聖句は、父、み子、聖霊の神の結束をいかに明らかにしていますか。

父、み子、聖霊は、天地創造に参加されました。それぞれの務めは異なりましたが、分かちがたい結束で協力されたのです。父なる神は、巨匠のデザイナー、偉大な建築家であり、ご自分の計画を、天地創造の実際の代行者であられるイエスを通して、聖霊の力と合わせて実行なさいました。これほど力強い超自然の行為というのは、私たちの理解をはるかに超えています。私たちに理解できること、しかもはっきりわかることは、創造されたこの世界と宇宙が実際に存在することと、神ご自身がこれらすべてを造られたということです（ロマ1:18～20参照）。

小グループは、当初から神のお考えでした。神の神秘的な多くの側面に関してたとえを用いるのは慎重でなければなりません、一つのたとえを大ざっぱに用いるなら、父、み子、聖霊は、救済史の中で最初の「小グループ」を結成されたのです。彼らは人類の創造とともに参加し、人類が罪を犯したあとには、ともにそのあがないに参加されました。

問2 ヨハネ10:17、18、ローマ8:11、1コリント15:15を比較してください。キリストの復活は、救済計画における父、み子、聖霊の結束を、いかに示していますか。

父、み子、聖霊は、人類をあがなうという明確な目的によって結束し、「小グループ」を作っておられます。「救済計画は、永遠の昔から無限なる神の協議の対象であった」（『キリスト教教育の基礎』186ページ、英文）。神にとって、できるだけ多くの人を救うこと以上に大切なことはありません（Iテモ2:4、IIペト3:9）。小グループには、今週の研究で学ぶさまざまな目的があるかもしれませんが、最も重要な目的は、失われた人をイエスに勝ち取ることに焦点を合わせることです。つまり、私たちは小グループで行動することによって、自分自身を助けるだけでなく、ほかの人をも助けることができます。言い換えれば、私たちの小グループの最終的な目的は、魂を勝ち取ることでなければならないのです。

神の一体性（三位一体）の神秘について、じっくり考えてください。それは理解しがたいことです。それにもかかわらず、完全に理解できないことを信じ、信頼することができます。なぜこれは信仰においてクリスチャンが従う重要な原理なのでしょうか。

聖書には小グループの例がいろいろ示されています。一緒に祈り、交わり、励まし合い、キリストのために働く小グループです。これらのグループは神の民に、責任を分担する機会や、彼らのさまざまな賜物を十分に活用する機会を提供しました。つまり小グループは、私たち1人ひとりをもっと十分に活用していただく機会を主に提供できるのです。

問3 出エジプト記 18：21～25 を読んでください。モーセの義父エトロは、モーセに大きな変化をもたらす摂理的な助言を与えましたが、その助言はどのようなものでしたか。このようなやり方は、なぜとても重要だったのですか。

イスラエルの宿営のどの人も、10人のグループの一員になり、そのグループは、1人の信心深い隊長によって導かれました。これらの小グループは、「問題解決のための場」でしたが、それ以上のものでもあったのです。そこは、問題を未然に防ぎ、霊的な生活を深めることのできる「交わりの場」でした。また、イスラエルに対する神のご計画を分かち合うことのできる「未来を語る場」でもありました。人々はこのようなグループの中で、思いやりのある密接な関係を築き、直面する問題が何であれ、関係者全員で取り組むことができたのです。間違いなく、当時も現代と同様、人々は他人から助けを得られないことで苦しみました。小グループは、温かく思いやりのある交わり、霊的な成長、問題解決を提供するのです。

興味深いことに、小グループの専門家は、グループの交流にとって理想的な大きさは6人から12人の間であると言います。それはまさに、自分のグループを作るために、モーセもイエスも採用した大きさでした。

問4 ルカ 6：12、13、マタイ 10：1、マルコ 3：13～15 を読んでください。イエスがご自分の小グループ伝道の一翼を担わせるために弟子たちを召し、選ばれことには、二重の目的がありました。それはどのような目的でしたか。

イエスが弟子たちを召された目的は、この世への宣教のために、彼らを霊的かつ実際に準備させることでした。イエスと交わる中で、彼らは恵みの内に成長するでしょう。小グループで集まる状況の中で、彼らはより効果的に奉仕する方法を学ぶでしょう。日々、イエスが周囲の人々の必要にお応えになっているのを見ながら、彼らは観察によって自分の賜物の用い方を学ぶでしょう。イエスの小グループの目的は、霊的な育成と奉仕活動の両方でした。

問5 1コリント12:12~25を読んでください。人間の体は、小グループにおいて仲良く協力することを、いかにうまく説明していますか。

パウロは、教会生活において霊的な賜物が重要であることを明らかにするとともに、それがいかに組織化されるかということについて、モデルも提案しています。彼は、キリストの体とその機能の仕方という観点から、霊的な賜物を論じているのです。

解剖学や生理学の研究は、体の器官が相互に関連するさまざまな器官系で組織化されていることを明らかにしています。例えば、消化器系、循環器系、呼吸器系、骨格系などは、体の複雑な器官系の一部にすぎません。霊的な賜物は、体のさまざまな器官に似ています。それらが最もよく機能するのは、系統やグループに組織化される時です。実際のところ、たいいていの場合、それらは単独では機能しません。私たちの体は、それぞれの働きを勝手に続けるばらばらの器官の寄せ集めではありません。体の機能は、共通の目標に向かって協力し合う、強く結びついた器官系で組織化されているのです。

これらのことはみな、私たちが霊的な賜物を最大限に活用できる環境について、何かを教えています。私たちが独りで働いているときは、たやすく落胆してしましますが、私たちが共通の興味や目標を持つ人たちの小グループの一員であるときには、自分の努力がより集中し、大きなものになることに気づきます。

小グループは、私たちの霊的な賜物を活用する最善の環境を提供し、地域教会の奉仕活動の中心になることができます。

エレン・G・ホワイトは、小グループの価値を強調しています。「クリスチャンの取り組みの基礎として小グループを作るようにと、神から私は示された。教会に多くの人がいるなら、小グループにわけ、教会員のためだけでなく、未信者のためにも働かせなさい。真理を知る人が数人しかいない場所では、彼らを一つの働き人の集団にしなさい。彼らの結束の絆が壊れないようにし、愛と一致によって団結し、励まし合って前進し、ほかの人の助けによって各自が勇氣と力を得られるようにしなさい」(『教会への証』第7巻21、22ページ、英文)。

小グループ伝道は、神によって定められたものであり、教会員1人ひとりが霊的に成長し、温かい交わりを体験し、神から与えられた賜物を奉仕に用いることができるようにします。

先のエレン・G・ホワイトの言葉をじっくり考えてみてください。どうしたらこの天来の勧告を、あなたの教会で実行できるでしょうか。

新約聖書時代の教会の成長は、爆発的でした。数年の間に、教会は信者の小さな集団から数万人の礼拝者へと、ふくれあがったのです。このような信者の流入と急速な成長現象には、多くの要因がありました。イエスの働きによって、すでに福音の種がまかれ、多くの人が弟子たちの宣教を受け入れる心備えをしていました。キリストが昇天されたあと、五旬祭の日に、信じて祈っていた弟子たちの上に、聖霊が力強く降りました。新約聖書時代の教会が急成長することに貢献した要因の一つは、小グループによるその組織構造でした。小グループが変化をもたらしたのです。

問6 使徒言行録 18：1～5、20：1～4 を読んでください。ルカはなぜ、パウロと緊密に働いていた人たちの名前を記したのだと、あなたは思いますか。

ルカがパウロと一緒に働いていた人たちの名前を挙げていることに注目すると、とても興味深いです。ルカにとって、1人ひとりが重要であり、彼は全員の名前を知っていました。彼らは伝道活動において互いに助け合いました。ルカが挙げた名前の数はわずかですが、名前を挙げることは、少人数であれ、互いに緊密に働くことの重要性を証明する助けになっています。

この人たちはそれぞれ、ほかの人が持っているのとは異なる賜物を確かに持っていました。彼らは、さまざまな背景と文化の中で育った人たちでした。ものの見方も、必ずしも同じではありませんでしたが、キリストの働きのために、1人ひとりが価値ある貢献をしました。彼らの賜物、背景、体験が多様であったことは、教会の成長に貢献したのです。彼らはそれぞれ、自らの背景と、キリストとの個人的な経験の豊かさによって、キリストの使命に貢献しました。

問7 使徒言行録 16：11～15、40 と 12：11、12 を読み比べてください。リディアは回心した直後、パウロにどのような招待をしましたか。パウロもペトロも、牢から解放されたあと、どこへ行きましたか。

新約聖書時代の信者は、定期的に彼らの家で集まりました。クリスチャンの家が、地域奉仕センターや小グループ伝道の中心地になっていたのです。

あなたは自宅で小グループ伝道を始めようとか、友人の家で小グループ伝道を始めようと考えたことがありますか。もしあなたがすでに小グループの一員であるなら、どのように霊的生活が祝福を受けているかを分かち合ってください。

小グループは、神がご自分の教会を成長させるために用いられる手段であり、人々が自分の問題を口にし、相互の心配事を話し合う「安全な避難場所」です。小グループは、思いやりのある人間関係の中で、靈的に成長する機会を提供します。クリスチャンでない多くの人は、最初から教会の伝統的な礼拝に出席するよりも、家庭における小グループの集会に参加するほうが、初めはくつろげるでしょう。

問 8 使徒言行録 4：31、12：12、20：17～19、27～32 を読み、新約聖書時代のこれらのグループがしたことをすべて書き出してください。これらのグループは、どのような活動をしましたか。

初期のクリスチャンたちは集まると、ほかの人のために執り成しをし、互いの心配事について祈り、温かい交わりを共有し、神の言葉を学び、奉仕に必要な力を身につけ、偽りの教えから互いを守り、ともに伝道活動に参加しました。

小グループは変化をもたらします。奉仕において自分たちの賜物を結合させ、伝道のために聖霊の力を重視する人々は、主のみ手の中の強力な武器です。

問 9 マタイ 9：37、38 を読んでください。収穫について、イエスは何とっておられますか。この問題に対する彼の解決方法は、どのようなものですか。

弟子たちは、福音が進展する可能性はわずかだと思っていましたが、イエスは、大きなチャンスがあるとお考えになりました。彼は弟子たちに、「収穫は多い」（マタイ 9：37）という良い知らせを伝えてから、次に「働き手が少ない」（同）という問題を指摘なさいました。イエスの解決方法は、「収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」（同 9：38）というものでした。小グループは、キリストの祈りに対する答えであり、キリストの収穫のための働き手を飛躍的に増やします。

すべての効果的な小グループの中心は、あかしと奉仕です。小グループの活動は、その関心が外ではなく、内に向けられると、すぐに消滅してしまいます。もし小グループが自分たちのためだけのものになり、話し合いのグループにすぎなくなると、本来の目的を達成できず、重要な存在理由を失うのです。小グループは、人々をイエスに導き、イエスに対する彼らの信仰を養い、イエスをあかしするための能力を彼らに身につけさせるために存在するのです。

昔、ヨーロッパ大陸のある大都市の外れにあった小さな教会が、主のために何か意味のあることをしようと決めました。この教会は停滞していたのです。何年もの間、だれもバプテスマを受けていませんでした。もし現状が続くなら、この教会には未来がほとんどありません。牧師と理事たちは熱心に祈り、何ができるかを慎重に考えました。

新約聖書を研究していたとき、彼らは小グループ伝道を始めることにしました。教会員の中の9人の一般信徒がそのビジョンを持ち、ともに祈り、効果的に小グループ伝道を根づかせる方法を研究しました。じきに彼らは、それぞれの家を伝道センターにしようと決心します。各グループは、それぞれの賜物を活用することを学び、祈りともてなしの働きを始めました。近隣社会の中で友情を育み、家族、友人、かつてアドベンチストだった人たちに親切な行為で手を差し伸べたのです。小グループの指導者たちは、九つの家で40人の出席者と聖書研究を始めました。彼らは、聖霊がなさることを見て驚きました。最終的に、40人の内の17人がバプテスマを受けたのです。この小さな停滞気味だった教会は、小グループが大きな変化をもたらすことの証拠です。小グループは、多くの教会員を教会の宣教に関わらせる神の手段の一つなのです。

話し合いのための質問

- ① 小グループが目を外に向け続けること、宣教を重視し続けることは、なぜ重要なのですか。つまり、どれほどそのグループがメンバーを養い、支援する手助けができるとしても、なぜ福音宣布をグループの目的の中心にし続けなければならないのですか。また、小グループはなぜいつも地元の教会とつながっているべきなのですか。なぜそのことは重要なのですか。
- ② あなたは、効果的に機能しなくなり、最終的に消滅してしまった小グループの一員であったことがありますか。あるいは、そのようなグループについて聞いたことがありますか。なぜこのようなことが起きたのだと、あなたは思いますか。その理由について話し合ってください。
- ③ 金曜日の物語、つまり小グループ伝道に関してヨーロッパで起きたことについて考えてください。なぜそれはうまくいったのだと、あなたは思いますか。いろいろな意味で、単純ではあるけれど効果的などんなことを、彼らは実行しましたか。また、家という「より安全な」環境での働きかけは、教会堂とは違い、なぜ隣人や近隣社会への伝道を始める効果的な方法であった可能性がありますか。